

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成17年12月22日(2005.12.22)

【公表番号】特表2004-528294(P2004-528294A)

【公表日】平成16年9月16日(2004.9.16)

【年通号数】公開・登録公報2004-036

【出願番号】特願2002-560674(P2002-560674)

【国際特許分類第7版】

A 6 1 K 31/122

A 6 1 K 31/136

A 6 1 K 31/222

A 6 1 P 17/00

A 6 1 P 31/04

A 6 1 P 31/10

A 6 1 P 31/12

A 6 1 P 35/00

【F I】

A 6 1 K 31/122

A 6 1 K 31/136

A 6 1 K 31/222

A 6 1 P 17/00

A 6 1 P 31/04

A 6 1 P 31/10

A 6 1 P 31/12

A 6 1 P 35/00

【手続補正書】

【提出日】平成17年1月25日(2005.1.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

所定の周波数の音に曝すことによって活性化されるペリレンキノン誘導体を含む疾患、障害または病状の治療用の組成物。

【請求項2】

ペリレンキノンがヒポクレリン、セルコスポリン、フレイクロム、エルシノクロム、クラドクロム、エリスロアフィンおよびカルホスチンを含む群から選択される、請求項1に記載の組成物。

【請求項3】

ペリレンキノンに官能基を賦与する、請求項2に記載の組成物。

【請求項4】

ペリレンキノンが、不活性状態では高濃度で無毒であり、活性状態では低濃度で有毒である、請求項1に記載の組成物。

【請求項5】

音増感剤および光増感剤であるペリレンキノンをさらに含む、請求項1に記載の組成物。

【請求項 6】

ペリレンキノンがヒポクレリン誘導体である、請求項 1 または 2 に記載の組成物。

【請求項 7】

ヒポクレリン誘導体に官能基を賦与する、請求項 6 に記載の組成物。

【請求項 8】

ヒポクレリン誘導体がブチルアミノ化ヒポクレリン B、2 - (N, N - ジメチルアミノ) - プロピルアミン - ヒポクレリン B、エタノールアミノ化ヒポクレリン B、および 1, 12 - ビス [2 - (アセチルオキシ) プロピル] - 2, 4, 6, 7, 9, 11 - ヘキサメトキシ - 3, 10 - ペリレンジオンからなる群から選択される、請求項 7 に記載の組成物。

【請求項 9】

ヒポクレリン誘導体が、不活性状態では高濃度で無毒であり、活性状態では低濃度で有毒である、請求項 8 に記載の組成物。

【請求項 10】

組成物が標的成分をさらに含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 11】

組成物が、疾患、障害、疾病または病状に対する標的部分を含む、請求項 10 に記載の組成物。

【請求項 12】

組成物が、皮膚症状、癌、ウイルス性疾患、レトロ・ウイルス性疾患、細菌性疾患および真菌性疾患を治療するための音増感剤を含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 13】

誘導体を音に曝すことが誘導体を超音波に曝すことを含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 14】

誘導体を音に曝すことが、誘導体を 50 kHz と 12 MHz の間の周波数に曝すことを含む、請求項 13 に記載の組成物。

【請求項 15】

誘導体を音に曝すことが、誘導体を 1 MHz と 3 MHz の間の周波数に曝すことを含む、請求項 14 に記載の組成物。

【請求項 16】

誘導体を活性化することが、誘導体を音および光に曝すことを含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 17】

腫瘍細胞を不活性化するための医薬の製造における適切な量の少なくとも 1 つのヒポクレリン誘導体の使用であって、ここで該誘導体は音の周波数を使用して活性化されることを特徴とする上記使用。

【請求項 18】

ヒポクレリン誘導体を活性化することが、ヒポクレリン誘導体を 50 kHz ~ 12 MHz の音の周波数に曝すことを含む、請求項 17 に記載の使用。

【請求項 19】

光を使用してヒポクレリン誘導体を活性化することをさらに含む、請求項 17 に記載の使用。

【請求項 20】

音増感剤ヒポクレリン誘導体、ならびに pKa 調節剤、緩衝剤、塩、塩基、酸、生理食塩水およびアジュバントの少なくとも 1 つを含む医薬組成物。